

第4回宮中取水ダム試験放流検証委員会の検証結果(1/2)

○ 平成24年度(3年目)については、河川環境等の調査結果を過去2年間(平成22年度、平成23年度)と比較した結果、大きな変化は認められなかった。

モニタリング項目	平成24年度調査結果	評価
河川形態*	<ul style="list-style-type: none"> 河川形態の面積比率は平成24年度に実施した40m³/s、60m³/s放流時で大きな変化はなく、過年度に実施した50m³/s、80m³/s放流時と同程度となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな変化は見られなかった
河川水温	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度夏季の高水温期(7/26~9/5)の最高水温は28℃を超過する日が連続しており、平成23年度を上回り、平成22年度と同程度だった。 平成24年度の夏季は、気温や日照時間が過去の平均以上であり、減水区間以外の宮中取水ダム魚道や魚野川地点でも期間を平均すると過年度を上回る水温だった。 過年度同様、定点観測地点よりも水温の低い箇所を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 気温等も平年を上回っていたこともあり、最高水温が目安を上回る日があった
付着藻類	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度の藻類の異常繁茂面積割合の最大値は、平成22年度と同程度で平成23年度より多かった。全地点とも藻類の異常繁茂の目安とした17%を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 目安を下回っていた
底生動物	<p>(平成22年度及び平成23年度の初春季調査を踏まえた結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季と初春季の関係をみると、種類数の違いや共通する優占種が両年とも同様の傾向を示していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季のデータで調査地点の底生動物相を大まかに捉えることが可能であることがわかった。
	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度の夏季調査は、平成22年度及び平成23年度と比較すると、各地点で種構成や個体数の増減はあるものの、明確な変化の傾向はみられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな変化は見られなかった

*:平成24年度は、補足調査として実施した項目

第4回宮中取水ダム試験放流検証委員会の検証結果(2/2)

モニタリング項目		平成24年度調査結果まとめ	評価
魚類の生息及び遡上・降下	生息・生育状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度に確認された種類数は、過年度と比較すると、大きな差は見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな差は見られなかった
	生息場の状況* (滞筋)	<ul style="list-style-type: none"> 最低限確保すべき滞筋幅（水深30cmで13.5m）が連続して確保されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 目安が確保されていた
	アユ生息・生育状況	<ul style="list-style-type: none"> 宮中取水ダム減水区間では、アユが生息・生育可能な環境が保たれていることが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな変化は見られなかった
	サケ遡上	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度の遡上数は、これまでの調査の中で最も多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 遡上数が増加した
河川景観*		<ul style="list-style-type: none"> 見かけの水面幅と川幅の比は、全調査地点で0.2以上が確保されており、平成22年度及び平成23年度と比較して大きな変化は見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 目安が確保されていた
河川水質		<ul style="list-style-type: none"> 減水区間の観測地点のSSは2月と4月を除き環境基準を満たしていた。 減水区間の観測地点のBODは2月と8月を除き環境基準を満たしていた。 減水区間の観測地点のDO、pHは年間を通じて環境基準を満たしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境基準を概ね満たしていた
河川利用	河川利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度は、平成22年度及び平成23年度と比べて夏の利用者が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川の利用を確認した
	釣場適性把握	<ul style="list-style-type: none"> アユの生息に適し、釣り場として利用できる可能性がある地点は、60m³/sで26地点、40m³/sで31地点であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 釣り場に適した地点を確認した
	舟下り適性把握	<ul style="list-style-type: none"> 40、60m³/s放流時の調査で、全区間（宮中橋下流～小千谷発電所放水口）にわたりラフティングボートでの航行が可能であることが確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 航行が可能であることを確認した

*:平成24年度は、補足調査として実施した項目